

## 10 いりまほ 入田浜

海岸沿いのソテツ並木から南国ムードが漂うビーチです。白く砕けたコバルブルーの海が見事で、その美しい景観は多くの人を魅了します。清掃活動は吉佐美地区や地域サーフ、地元住民らで行っていて、色々な人によって守られていることがわかります。



左写真 入田浜遠景  
右写真 タバコの吸い殻を入れるためのお手製の竹筒が浜の入口に地元民によって用意されています。



## 12 ぶたにくるまのふん 佛谷山石仏群

佛谷山には十六羅漢、三十三観音が安置されています。江戸時代に生きた人々の願いや祈りを、現代を生きる私たちが目にし、感じることができます。石仏を造ると、全体的に丸みを帯びており、その表情からも、豊かさと知恵力を感じることができます。また、石仏を納めるのが山道を数度登り、頂上にある金霊羅漢のお社は吉佐美大浜が望まれます。



左写真 石仏群の一部、彫られた彫壁の穴に設置されています。  
右写真 金霊羅漢の石社の地点から見る吉佐美大浜。



## 11 ほまおもとじせいち ハマオモト自生地

ハマオモトは一般的にハマユウと呼ばれています。7月～8月に咲き、田中サンドスキー場の一角に自生していますが、熱帯植物であるハマオモトの種が自然選抜により自生し群を成すことは稀なため、静岡県の天然記念物に指定されています。ハマオモトの持つ「どこか遠くへ」[純潔]という花言葉のとおり、白く可憐な花を咲かせます。

注)見学の際は自生地に入らないようお願いいたします。



左写真 ハマオモト近景。  
右写真 ハマオモトの群生している海。



## 13 たきまのやま 多葉山

多葉山には遺跡があります。遺跡名としては「田原山遺跡」とい、読みは同じですが漢字が異なります。発掘調査から、遺跡は縄文時代から古墳時代まで長く人が住んでいた村(集落)跡であることがわかります。また、朝日小学校の校庭には「たきまの」歌謡が入っていることや、学校からも近いために生徒が遊びながら学ぶ場所となっている、子どもたちに親しまれています。



左写真 多葉山遠景。  
右写真 多葉山へ上る道。



## 14 みこもとまどうい 神子元島燈台

神子元島燈台は、江戸幕府が英・米・仏・蘭の4国と締結した改称の書により、下田港と東京湾に出入する船舶のため、明治政府によって建設されました。下田から切りだされた伊豆石が精錬に積み重ねられています。大久保利通らの立ち会ひのもと、明治3年11月に初めて灯台に火が灯りました。伊豆半島沖を往來する船舶に光を放ち続け、今なお当時の姿を残す日本最古の洋式の石造灯台として国指定史跡となっています。



左写真 灯台近景。  
右写真 灯台遠景。星と白のボーダー柄が満月より目立つ。



## 16 とうじちちまらじんじやいすのき 田中八幡神社獅子舞

毎年「中秋の名月」の日で開催します。神社境内に笛の音が響き渡り、「できたきた」と声が上がると獅子と熊獅子の2体による舞が始まります。その勇ましく舞う様子が「喧嘩獅子」と呼ばれています。舞い終えた後には互いの口を合わせて静かになり、神社へと帰っていきます。



左写真 境内を走り回りポーズを決める様子。  
右写真 熊には腕枕に扮れ込み、熊を捕まえるの仕度になっています。



## 15 まきみはちまんじんじやいすのき・くす・いちろう 吉佐美八幡神社 イスノキ・樺・イチョウ

吉佐美八幡神社の木々は多くが古木であり、見るものにやすらぎを与えます。中でもイスノキは樹高17m・推定樹齢800年であり、国の指定文化財となっています。葉に実のような虫こぶができることが特徴で、地元ではヒヨノキと呼ばれています。また、境内には樺・イチョウもあり、両とも樹高が31mの古木です。



左写真 中央が樺、左がイチョウ。  
右写真 中央にある太い樺がイスノキ。



## 17 とうじちちまらじんじやいすのき 田中八幡神社おびいしゃり

田中八幡神社の獅子舞が終わると、余興として披露されるのがおびいしゃりです。おびとは尻尾のことで、おびいしゃりとは、浴衣の尻尾(裾)を尻尾にするのだといわれています。仮装をし、ひょうきんな格好で腰をグツと下げて踊っている、見物していた人々や子供たちも参加し始めます。笛が笑いながら踊る様子はとても楽しげです。



左写真 合の上で踊りながら回る様子。  
右写真 終盤には一般の方や小さな子供を交え踊る。

